

JCI (公社)太田青年会議所

〈題字/吉澤弘晃理事長〉

上州太田

【公益社団法人太田青年会議所2016年度スローガン】

成長する意識を高めよう！ちいきに幸せを循環させるために！



年頭のご挨拶

公益社団法人太田青年会議所 2016年度

第52代理事長 吉澤 弘晃

新年明けましておめでとうございます。

昨年は渡邊晃司理事長のもと、2014年の創立50周年を節目として100周年へ向け新たな一歩を踏み出した年であり、「心の積極性でチャンスをつかめ！輝かしい未来へ繋げるために！」をスローガンに掲げ、事業展開並びに組織運営において新たなチャレンジを次々と試みた一年でした。太田青年会議所OB会先輩諸兄をはじめ関係各位の皆様から多大なるご指導とご支援をいただき、大きな成果を上げることができましたことを心から御礼申し上げます。

本年私どもは「成長する意識を高めよう！ちいきに幸せを循環させるために！」をスローガンに掲げ、さらなる発展を目指してまいります。

私たちは成長への意識を高める必要があります。それは大切な人を幸せにするためです。一人ひとりの成長を実現し、さらに魅力あるちいきへと発展させるには人づくりからという考えのもと、ちいきの魅力を高め、夢を描ける人材育成を行います。また、グローバル化の進展もあり、目まぐるしく急速に変化する時代となりました。今必要なのは広い視野と先見性を持ちビジョンを描けるリーダーです。自己研鑽を積み重ね、克己心と向上心を持ち力強く、そして能動的

に運動を展開してまいります。

そして今夏、太田青年会議所は公益社団法人日本青年会議所関東地区協議会が主催する関東地区大会をこの太田の地で開催させていただきます。関東各地から約2,000名の青年経済人が一堂に会するコンベンションという大きな機会にあたり、私たちは今までに培った経験とネットワークを総動員して臨みます。これまでご支援をいただいた行政や、ともに社会貢献を目指して活動されてきた諸団体の皆様にも呼びかけさせていただき、力を結集して太田の魅力を関東に発信するとともに、市民の皆様にも太田の魅力を再認識し、まちづくりへの意識を高めていただける大会を目指します。

英知と勇気と情熱を持って、人に関心を寄せて、人の幸せを願い努力する。伝える努力を惜しまずに相手を思いやり、心を持って活動すれば、やがてこのちいきに住み暮らすすべての人々に心の深奥から湧き上がる感動が生まれ、幸せが循環すると確信しております。

本年も皆様の変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご多幸をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

笹川博義 × 吉澤弘晃

衆議院議員

第52代理事長

～太田スピリット、そして関東地区大会主管～

吉澤：笹川先輩それではよろしくお願いたします。

笹川：よろしくお願いたします。早速ですが理事長方針にある太田スピリットとは？

吉澤：関東地区大会を太田で主管するにあたって、太田の魂を前面にぶつけたい思いから太田スピリットと題しました。来年の方向性として行政はもちろん、地域の住民と民間の企業にタイアップして頂いて、全面的に太田の力の一つにしたいと思いつけました。

笹川：来年2016年は関東地区コンベンションをやり、2000人からのJCメンバーが集まる。JCの目線で言うとJCメンバーが2000人という事になるのだけど、一歩外出た人間からすると2000人の経営者が集まるということになる。この人数が集まるなんてことは中々ない事。東京ビッグサイトでもそれだけを集めるのは大変なスペースがいるから、それが太田に集まる機会はかなり貴重。それなのでこの機会に外からの人どう結びつくかも凄く大事だと思います。今、高崎で群馬県の事業をやっているのですが、難しい点なのが企業は出会いが少ない、という事。出会いがある企業はレベルがかなり限られてきている。そういう意味で地域の中小企業は出会いの機会を作らなければならない。そういう意味では今回は太田市全域が展示場のようなもの。だからそういう風に考えてただ来てもらうだけではなく太田の企業と外からくる経営者たちと見合いをしてビジネスチャンスにして欲しい。

吉澤：今、思っているのは地域の方に青年会議所というのを理解して頂きたいし、参加してくれるJCメンバーの方には太田市の魅力イコール自分の地域の魅力を感じられるようにしたいと思っています。特に太田市は合併して10年が経ち

ましたが歴史を紐解けば合併に合併を重ねた地域であると思っています。それが太田の魅力でこれだけの街になったのは、地域の人間が非常に多くかかっていると思っています。そしてこの地域で誇れるものは多くありますが、その中の1番は人間性だと思っています。人が繋がったことによって色々な事が繋がるのだという事を、JCメンバーには持ち帰って頂きたい。

笹川：太田はスバルの前身である中島飛行機が有名ですが、中島飛行機は実はすべて国産なわけではない。世界の技術を迎え入れている。そこに行くまでには外国に行って自ら取り入れてきた背景がある。そういう意味では太田も発信しながら導入して、吸収しなければいけないものがあると思います。その観点からも今回の関東地区大会は非常に重要になって来ると思います。太田スピリットという発想はいいと思います。

～ちいきの宝～

笹川：また方針にちいきの宝とも書いてあるが、これはいつの時代もそうなのですが、子供が夢と希望を想像できない社会はイコール国の未来を感じられない。次代を担う子供たちがどうやったら希望を感じられるか、を常に求めていく事が重要。それは我々の先輩もずっと同じ想いの中で時代を作っていったと思います。守るものは守り、変えるものは変えてその繰り返しで日本は進化してきたと思っています。明治維新も何らかの閉塞感があって。そこに危機感を感じてそれではいけないと若い人たちが立ち上がって変えていく努力をしてきた。そういった意味では子供たちにそういった気持ちがあれば必ず変わっていくと思う。

吉澤：いろんな教え事もそうですが何よりも夢を思っている。夢がないと前に進めないと思っているので、我々を含めた上でもっともっと、夢を持って努力することで成長が生まれると思っています。

笹川：大人たちが頑張っている背中を見せることも重要。昨日太田市の体協の10周年があってスポレクなんかでやると一流のアスリートが来て教える。これはものすごく感じるものがある。家庭ではお父さんお母さんが頑張る姿を見て子供たちは感じる所もある。あとは背中を押してあげてスポーツでいえば年を追うごとに記録が伸びていく。市の大会、県の大会、全国大会、そして世界へも行けるかもしれない。オリンピックにだって出られるかもしれない。そうならば夢がまた出来、大きなパワーになる。そのためにはこの地域が元気にならないといけない。今国でやっている地方創生というのは基本的に日本の事を支えているのは地方、地域だという事です。個々の力が廃れるという事は国の力が廃れることと、正にイコールだと言っている。危機を感じているので地方創生にエンジンをかけてやっている。だからそれを果たすにはその地域の若い力の人たちが立ち上



笹川博義 (ささがわ・ひろよし)

■生年月日/昭和41年8月29日生まれ(49才) ■家族/妻・長男・長女・次女の5人家族 ■趣味/映画鑑賞、ガーデニング、読書 ■好きな言葉/兼愛非攻 ■現職/衆議院安全保障委員会、所属委員会環境委員会、災害対策特別委員会

がって頂かないと出来ないわけです。地方創生の中で青年会議所の責任は歴史の中で非常に重い様に思っている。高度成長期の時代の右肩上がりの時代ではなくなった。下げ幅をどうやって反転させていくかが今、分かれ道である。青年会議所の役割はこういう時代だからこそ輝くと思っている。私も最初はJC活動を嫌々やっていた。ただ、段々慣れてきてJCの良い所が見えてきた。それは目標を掲げた時にそれに向かって邁進することだと思う。ただ、活動していく中で必ず何かしら問題が起きたり、悩みが出てくる。それに対してブツブツ言いながらも委員長を中心に立ち向かっていき、突き抜ける突破力こそJCの魅力だと考えている。第三者的に冷やかに見えても、なんとなく巻き込まれてやってしまう。それが人生の中で一番できるのが30代である。そこがJCの魅力。経験があるという事は頭だけで理解していることとは違うので、そういった意味でもかけがえのないものだと思います。

吉澤：僕もそういったイメージがあって、来年の方針の中でこの20代、30代の限られた時間の中で経験することによって、40代、50代が非常に大きく変わってくると思っています。漠然と40代を迎えるのと色々な経験を積んで40代を迎えるのとでは、大きな違いが出てくると思っています。笹川先輩も現役としてやり切って今を迎えている中で、どんな事が変わったと感じていますか。

笹川：卒業すると年齢がものをいう。現役の時は年齢でなく歴や役職をわきまえて接する。会社に戻れば親方、親分、社長。JCに来れば自分より若い人間でも役職が上であれば仕方なしにでも敬意を示す。それを経験して慣れていくと、社会に出て役に立つ。会社では親方でも1歩外に出れば違う場面の方が多くなる。国会議員もそう。選挙区では国会議員1人でも国会に出たら先輩が多くなる。今農林部会に入っているが、農林部会長は小泉進次郎さん。年齢からすれば僕よりも遙かに下。でも僕は副部会長で小泉さんを支えなければいけない立場という事になる。やらなければいけない場面では理屈抜きになって来る。この感性は僕がJCに入っていて良かったと思う一つになっている。一人親方だけで独りよがりになっていたら、こういった事は出来なかったと思う。このあたりの感覚、感性は振り返ってみるとJCでの経験値によるもので、本当に良かったと思える所です。皆会社の中では一番偉い、そして一番能力もあると思っているかもしれない。だけどJCに来ると自分よりも優れた仲間が沢山いる。会社は俺の方が大きい、経営者としてはあいつの方が上だと思える人間は本当



第52代理事長 吉澤弘晃

に沢山いるのです。僕の仕事柄役所の人と話す際も、高学歴の人と話をするのは容易ではないが、でもそれはそれ。こちらにも背中に背負っているものがあるからきっちりと話をしなければいけない。局長クラスになればだいたい自分なんかよりも年が上。話が終われば人生の先輩だから敬意を示す。それが出来るのは経験しておいた方がいい。そういう意味でもJCというのは良い修練の場だと思っています。

～JCコミュニティの創造～

吉澤：僕は広報が1番大事と思っていて、来年は広報委員会ではないのですがJCコミュニティ創造特別委員会という形で基本的に対外広報を重視した委員会を設置します。地域の人への発信をするだけでなく、地域の人にそれが伝わっているか検証する。相手方の反応を見つつ、我々の事を伝えたい。そして地域の人々がどんなことを望んでいるか、将来の希望を見据えた上での広報は我々の為でもあり地域の為にもなる。コミュニケーションを取りながらコミュニティを作っていくという事でやらせていただくのですが、その際

にも広報は重要性が非常にあると思っています。

笹川：僕なんかは広報委員長の時にどうやって発信できるかなと常に思っていて、やる事はやってもどういった効果があるかは実は検証できていない。事業をやるならやっぱり検証するのが大事だと思う。

吉澤：今までも投げかけはできるが、その後どうか、という

部分が出来ていない気がします。例えば講演を聞いて1週間くらいは頭の中に残っているが、結局1ヶ月以上経過すると薄れて行ってしまふ。投げかけをしながらいと本心、本当に伝えたい事は伝わらないと思っています。

笹川：例えばカンボジアに自衛隊をPKOで出す時に当時海外派兵だと言われ、もの凄い勢いで反対された。ところが今現在、国民の皆さんに意見を聞けばほぼ派兵だとは言わ



笹川博義 × 吉澤弘晃

衆議院議員

第52代理事長

ない。それくらいPKOを理解してもらえた。理解してもらう事はこれだけ大変な事なのです。青年会議所の活動の中で一番大事なのは一人ひとりの理解度をどれだけ深めて行くか。信頼や期待は理解なしにはあり得ない。ここに到達すると、じゃあうちの若い衆を預けてみようかなと思ってもらえ、会員拡大にも繋がって来る。今はお願いします、とマイナスのところから始まると思う。事業をやっても参加してくれた方が主催者が誰かという所までは考えることはあまりない。だけどこんなに良い事業をやっている100kmアドベンチャーウォークにしても金山清掃にしても、真に理解してもらう事はもの凄く大事である。国の政策も理解してもらって初めて支持も上がって来る。そういった意味でも理解されることは大事。

～グローバルな視点を持つリーダーとは～

笹川：グローバルに関しても主軸になるのは日本人という軸があるという事。リーマンショックがあって皆気づいたが、実は日本はアメリカだけではなくヨーロッパや全世界と密接になっている。シリアのテロもそうで、そういった中近東の課題も世界中に大きな影響を及ぼす。グローバルとは日本人という主軸を持ちつつ、その他の国の理解をしていくものだと思う。日本人としてのしっかりとした軸があってなおかつここを理解する度量があるか、ということがグローバルな視点になると思う。

吉澤：地域のリーダーを後輩に受け継ぐとしたらどんな事を地域のためにしていく事が重要かを聞かせてください。

笹川：常々自分の会社の従業員に言っているのは、今あることは当たり前と思うな。ここまでくるにはいろんな歴史があって、小さい工場からスタートした歴史があって今があるのだという事。そのことを忘れないで欲しいと言っている。この地域で言えば中島飛行機があって。戦争に負けた時代に全部解散されて自動車産業を興して今日がある。だけど太田は自動車産業だけでなく農業もある、なぜ農業を言ったかという、それぞれの町でそれぞれ資源だって様々ではあるが根っこの部分である食文化をしっかりと守っている農業は大切だという事。青年会議所も新しい所だけでなく、ベースを大事にしてどう進化していくかを考える。JCは様々な業態の人がいるので本当に勉強になる。リーダーである自分の根本を大事にしなければいけない。



～ネクストステージ～

笹川：トレイルランニングは継続事業にするのかな？対外発信する時にこれは青年会議所でやっているのだ、と言う事は対外発信の中でも重要だと思う。単年度の悪いところをどう改めてやっていくかを何か工夫すると思う。太田という平坦なイメージで、山があるイメージが湧きにくい所でトレイルをやるのも面白いのかもしれない。出場した人にアンケート調査でもいいけど魅力的なコースかどうかを聞いてほしい。

吉澤：出た人曰く、初心者向けのコースであるとのこと。トレイルの本格的なコースではないが走りやすいコースとのことでした。

笹川：苦情とかはなかったの？

吉澤：大きな決定的なものはないです。

笹川：それは素晴らしい！是非とも群馬県で1、2を争う事業に作り上げてもらいたいね。

吉澤：単年度制の良い所、悪い所あるのでその辺りが難しいのも事実です。

笹川：五箇年計画とかやっちはいけないのかな？

吉澤：僕やりたかったんです。JCコミュニティーもネクスト3とか5とかをやりたかった。3年後にどうするか、5年後にどうするかを書いたが中々難しいところがあった。

笹川：でもチャレンジ出来るじゃない？それをやっておけば次は当たり前になって来る。少子化になってメンバー確保が難しくなって来るし、企業家も少なくなって来れば余計にメンバーをそろえるのが難しくなってくるよね。

吉澤：若い人が起業する人が少なくなっている面もありますね。

笹川：そういったことをOBも含めてある人だけでなく、無いものを誕生させるのも1つだと思う。JCがコンベンションホールになる。そういう意味でこの2000人集まる関東地区大会は少しそういう視点でやってもらえると面白いと思います。

吉澤：関東地区大会は4益をうたわせて頂いて、主催者益は関東地区協議会の運動発信をどうするか。主幹益は我々太田青年会議所にどんな利益があるか。参加者益はこの2000名の利益。そして地域益は地域にどんな利益があるか。この4益が合わさって初めて成功となりますので先輩に頂いた意見を参考に組み替えて行きたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

笹川：ありがとうございました。頑張ってください。

2016年度委員長紹介



JC コミュニティー創造特別委員会



委員長理事 **荒木 義貴**

本年度、JCコミュニティー創造特別委員会では、(公社)太田青年会議所の活動を理解していただき、一緒に活動できる多くのメンバーを募り、一人でも多くのメンバーを増やしていきたいと考えています。また、多くの方々に(公社)太田青年会議所で行う事業の魅力を発信するだけでなく、ちいきの方が何を求めているのか多くの声を集め、ちいきの方々の想いに寄り添える活動をして参ります。皆様のご理解とご協力を宜しくお願い致します。

会員委員会



委員長 **田中 孝司**

2016年度会員委員会委員長を拝命いたしました田中です。2016年度会員委員会では、52年という歴史の中で、先輩方が培ってこられた太田青年会議所の伝統を大切に、青年としての情熱を持った積極的な行動でLOMメンバーを牽引します。自身の成長のみならず他のメンバーも成長させることにより、成長の循環を起こせると信じ、元気よく、明るく一年間活動を行ってまいります。皆様のご理解、ご協力を心よりお願い申し上げます。

グローバル経営戦略委員会



委員長 **荒井 規功**

2016年度グローバル経営戦略委員会委員長を仰せつかりました荒井規功です。2016年度グローバル経営戦略委員会では、様々な視点や考え方を学ぶことで多角的に物事を捉えることができる人材の育成をして、メンバーやちいきの、方々が状況に応じた経営戦略を生かされるように一年間活動して参ります。皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

ちいきの宝育成委員会



委員長 **西田 孝昭**

本年、ちいきの宝育成委員会委員長を拝命いたしました西田でございます。2016年度は、大人たちが子どもたちに対して積極的に関わっていくことと、子どもたちが、大人たちとの触れ合いの中で優しさや生きていく強さを持って頂くことを第一の目的として活動をして参りたいと思っております。また、この活動が一過性に終わらせるのではなく、さらなる次世代の子どもたちにも引き継がれるように全力を尽くして事業活動に邁進して参ります。諸先輩方、メンバーの皆様方、これから一年間さらなるご協力をいただけるよう、深くお願い申し上げます。

関東地区大会実行特別委員会



委員長理事 **栗原 一晃**

関東地区太田コンベンションより早24年が経ちました。先輩方が積み上げてきた歴史が来年度は関東地区会長を輩出するLOMへとなり、そして関東地区では初めての地区会長輩出と共に関東地区大会を太田で主管させて頂く事となりました。太田青年会議所50周年という大きな節目を経験した新たなステージとして関東地区へメンバー一丸となりコミットして行こうと考えています。全ての事が新たなチャレンジとなりますが、多くの皆様のご指導、ご協力を頂く事をお願い申し上げます。来年1年間邁進して参ります。

総務委員会



委員長 **岡村 和彦**

2016年度総務委員会委員長を仰せつかりました岡村和彦です。2016年度総務委員会では支えるという事を軸に、各種会議等の細やかなところまで配慮して活動していきます。またメンバーに笑顔溢れる活動をして頂くために気持ちに寄り添った情報の受発信をし、メンバー同士の信頼が深まりやすくなるよう促していきたいと考えております。LOMの下支えをすることで、メンバーの生き生きとしたJC活動の支えになり、また委員会メンバーにも支える喜びを感じて頂けるような活動をしていきたいと思っております。諸先輩をはじめメンバーの皆様、ご指導ご鞭撻を何卒よろしくお願い致します

交流委員会



委員長 **原田 正浩**

2016年度交流委員会委員長を務めさせて頂くこととなりました。原田正浩と申します。2016年度はメンバーへ積極的に手を差し伸べ、一部に留まらない多くの友情を育める交流を行います。また、諸先輩方や家族など日頃から支えて頂いている方々へ感謝の気持ちを伝えていきます。そして繋がりを広く深くつくり、その中でメンバー同士が互いに意識を高め合うことで、延いては各々の成長に繋がりが太田青年会議所が活性化すると信じ、精一杯活動して参りますので諸先輩方、会員の皆様、一年間ご指導ご鞭撻の程、心よりお願い申し上げます。

グローバルリーダー育成委員会



委員長 **重田 和士**

本年、公益社団法人太田青年会議所グローバルリーダー育成委員会の委員長を仰せつかりました重田和士です。2016年度は「視野を広く持ち、ちいきの輝かしい未来に繋げるために先導して行くリーダーの育成」を委員会の目標に掲げ、ちいきの特色、住み暮らす方々と共にちいきのCMやプロモーションビデオを作っていきます。映像の制作を通して、ちいきの事を更に良く伝えるためにどうしたら良いか、考え学ぶ事でちいきの発展のために先導して行けるリーダーの育成に繋がると信じ、一年間活動して参ります。諸先輩をはじめメンバーの皆様、ご指導ご鞭撻を何卒よろしくお願い致します。

ちいきの宝発信委員会



委員長 **小川 隼介**

2016年度ちいきの宝発信委員会では、このちいきにある豊かな自然を肌で感じてもらう機会を提供し、その自然の魅力を発信していけるよう活動を行って参ります。そしてこのちいきにある自然の魅力を一人でも多くの方に知っていただき、今ある自然の大切さを改めて感じていただければちいきへの関心が高まり、その関心がちいきを愛する心に変わっていくと信じ委員会が一丸となって一年間邁進して参ります。皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

2016年度 出向者紹介



倉嶋慶秀

公益社団法人日本青年会議所・関東地区担当常任理事/公益社団法人日本青年会議所・関東地区協議会・第62代会長

本年は、公益社団法人日本青年会議所関東地区担当常任理事並びに公益社団法人日本青年会議所関東地区協議会第62代会長として、出向させていただくことになりました。2016年度関東地区協議会は、「自利と利他の精神が調和した心溢れる関東の実現」をスローガンに、活動して参ります。関東が潜在的に持つ資源に対し、新たな付加価値を加え有効に活用し、未来を担う人々がより豊かに住みやすい地域を創造します。さらには158LOM8000名のメンバーが自己研鑽を積み、人を思いやる心を育み、絆をより強固にすることを目指し、関東の心をつにつに活動して参りますので、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。



塚本将成

公益社団法人日本青年会議所・地域グループ・ムーヴメント拡大委員会・副委員長

本年、日本青年会議所、地域グループ・ムーヴメント拡大委員会に副委員長として出向させて頂いたこととなりました。ムーヴメント拡大という名前ではありますが、褒賞の計画、審査等を担当する委員会となっております。世界や日本でどのようなJC活動が行われているか、また、それがどのように評価を受けていくのかといったことを学ぶことで、その知識を太田に持ち帰り、この地域の更なる力となれるよう全力で頑張ってお参ります。諸先輩をはじめメンバーの皆様、ご指導ご鞭撻を何卒よろしくお願い致します。



佐々木 晃

両毛地域青年会議所協議会・両毛交流委員会・委員長

本年、両毛地域青年会議所協議会両毛交流委員会委員長として出向させていただく事になりました。

2016年両毛交流委員会ですが6LOMの特色を活かした交流事業をさせていただく予定です。太田青年会議所での経験を活かし、両毛地域青年会議所協議会がさらに輝き、6LOM間での交流が今まで以上に強固になるように全力で活動しめまいますので諸先輩を始めメンバーの皆様には、一年間ご指導、ご協力を何卒よろしくお願い致します。

2016年度 出向者一覧

(公社) 日本青年会議所			
委員会名称	役 職	氏 名	
地 域 グ ル ー プ ム ー ヴ メ ン ト 拡 大 委 員 会	関東地区担当常任理事	倉嶋慶秀	
	副委員長	塚本将成	
	小幹事	石井克弥	
	委 員	石川達也	
	委 員	大須賀俊晴	
	委 員	鯨井宗一郎	
	委 員	佐々木 晃	
	委 員	高草木 亜弥	
	国 際 グ ル ー プ 国 際 ア カ デ ミ ー 委 員 会	委 員	高橋邦祐
		委 員	山菅慶太
次 世 代 グ ル ー プ 次 世 代 ア ン ト レ プ ル ナ ー 育 成 委 員 会	委 員	島田光貴	
	委 員	舟橋健太	

群馬ブロック協議会		
委員会名称	役 職	氏 名
事 務 局	直前会長	倉嶋慶秀
	監査担当役員	渡邊晃司
	事務局次長	亀田真子
	事務局員	荒牧大輔
	事務局員	市川進一郎
	事務局員	小谷野光里
群馬の絆向上委員会	委 員	町田和哉
	委 員	渡邊鉄平
心ある人材育成委員会	委 員	秋山健太郎
	委 員	恩田武
群馬の魅力創造委員会	委 員	小川恭兵
	委 員	九原舞

関東地区協議会		
委員会名称	役 職	氏 名
事 務 局	会 長	倉嶋慶秀
	運営専務	原島謙介
	副運営専務	内山道広
	事務局長	杉田洋一
	事務局次長	海老沼大鑑
	事務局次長	亀井貴文
	事務局次長	山田圭佑
	委 員	岩崎貴行
	委 員	大塚嘉崇
	委 員	小暮裕美
	委 員	佐藤崇史
	委 員	田部井翼
	委 員	寺内岳仙
	委 員	棚島貴広
	委 員	深澤昌治

両毛地域青年会議所協議会		
委員会名称	役 職	氏 名
事 務 局	出向幹事	深澤利弘
	事務局員	布施善弘
	事務局員	服部圭
両毛交流委員会	委 員 長	佐々木 晃
	総括幹事	小暮孝哉
	委 員	角田真吾
	委 員	中里聡史
	委 員	中村健
	委 員	堀江正樹
両毛地域協働委員会	委 員	黒川瞬
	委 員	佐々木裕幸

